

## &lt;先週の指標の動き&gt;

指標名	数値	コメント
6月毎月勤労統計 (速報、8/2) 現金給与総額 所定内給与 所定外給与 特別給与  常用雇用	前年比+1.5% 前年比▲0.2% 前年比+11.6% 前年比+3.3%  前年比+0.2%	6月の現金給与総額は、4ヵ月連続のプラス。内訳をみると、所定内給与の低迷が続いたものの所定外給与が6ヵ月連続のプラスとなったほか、特別給与が2ヵ月ぶりのプラスとなり増加に寄与。 常用雇用は、5ヵ月連続のプラス。一般労働者(▲0.3%)の減少が続くなか、パートタイム労働者(+1.7%)の増加が持続。
7月乗用車新車販売台数 (日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会、8/2)	前年比+12.9% (軽自動車含む)	7月の乗用車新車販売台数(軽自動車含む)は、政策効果を背景に12ヵ月連続のプラス。各社の販促活動にも後押しされ、エコカー補助金制度の終了(9月末)を見越した駆け込み的な動きが広がってきた模様。ただし、伸び率は3ヵ月連続で縮小。 車種別にみると、普通車(+20.3%)、小型車(+11.6%)がそれぞれ13ヵ月連続、12ヵ月連続でプラスとなったほか、軽自動車(+8.6%)も5ヵ月連続でプラス。
6月景気動向指数 (速報、8/6) CI先行指数  一致指数  遅行指数	98.9 前月差+0.3ポイント 101.3 前月差+0.1ポイント 83.4 前月差±0.0ポイント	6月の先行指数は3ヵ月ぶりの上昇。項目別にみると、株価や資源価格の下落を背景に市場関連指標がマイナスに寄与したものの、新規求人数(除学卒)が大きく増加したほか、消費者態度指数がプラスに寄与。 一致指数は2ヵ月ぶりの上昇。項目別にみると、生産財出荷がマイナスに寄与したものの、投資財出荷(除輸送機械)や有効求人倍率(除学卒)がプラスに寄与。

## &lt;国内景気の現状判断と当面の見通し&gt;

## (1) 国内景気の現状判断

昨春以降、輸出の回復や政策効果の発現を主因に、緩やかな景気持ち直しの動きが続いてきたが、足元で回復ペースは鈍化傾向。

## (2) 当面の見通し

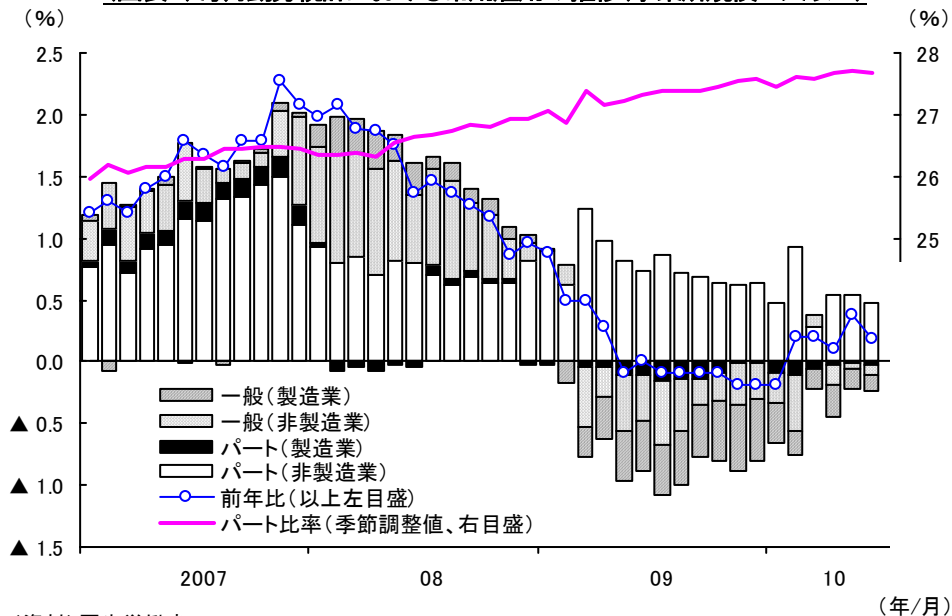
輸出の拡大に支えられて景気回復が持続。もっとも、①内需低迷が長期化すること、②これまでの景気持ち直しの主因である景気対策効果が剥落していくこと、から回復ペースは緩やか。民主党政権による所得拡大策の効果から個人消費が消費下支えに作用するものの、総じて低成長にとどまる見通し。

## &lt;当面の国内主要経済指標等のスケジュール&gt;

月日	指標名等	発表機関
8/9 (月)	7月 マネーストック 7月 貸出・資金吸収動向等 7月 景気ウォッチャー調査 6月 国際収支 金融政策決定会合(～10日)	日本銀行 日本銀行 内閣府 財務省・日本銀行 日本銀行
8/11 (水)	6月 機械受注 7月 企業物価指数 8月 金融経済月報	内閣府 日本銀行 日本銀行
8/12 (木)	7月 消費動向調査 6月 鉱工業生産(確報)	内閣府 経済産業省
8/13 (金)	金融政策決定会合議事要旨(7月14,15日分)	日本銀行

<図表で見る経済指標>

(図表1) 毎月勤労統計における常用雇用の推移(事業所規模5人以上)



(図表2) 乗用車新車販売台数の推移

